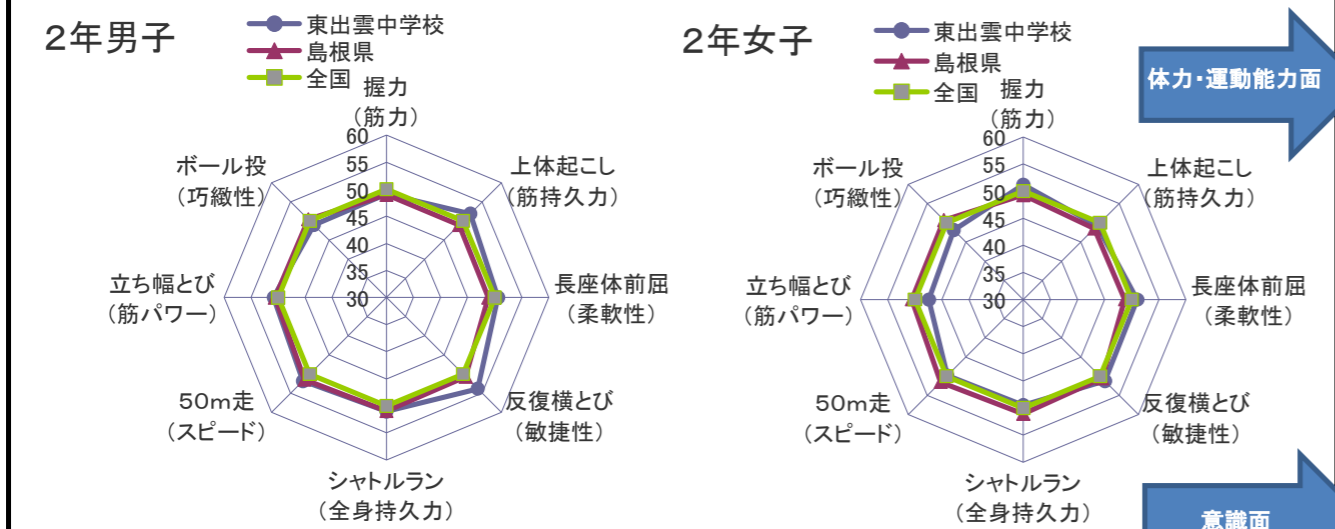
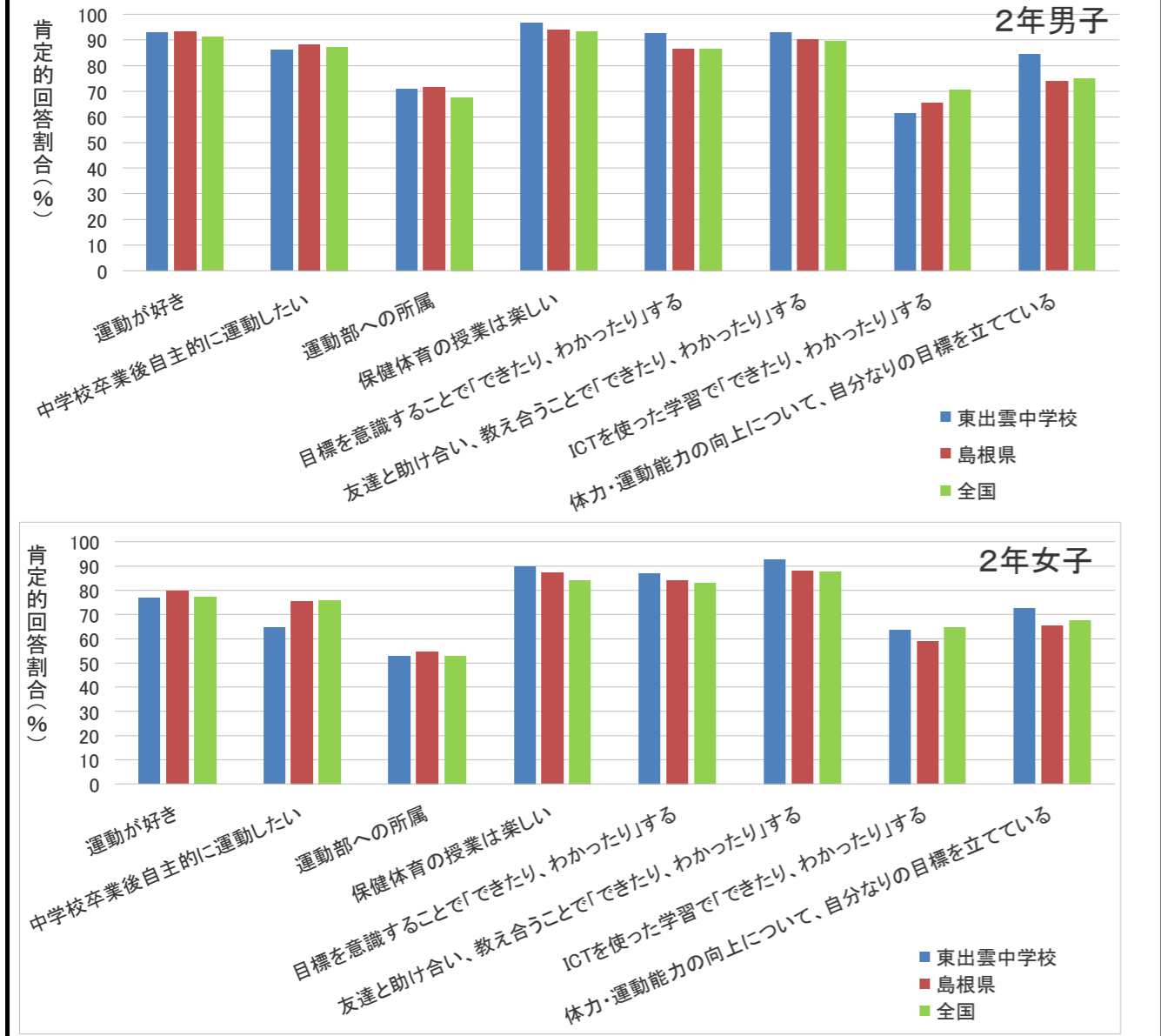


(1) 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査<意識調査>の結果
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(2) 調査結果の分析

① 体力・運動能力面 全国(偏差値)との比較

	握力(筋力)	上体起こし(筋持久力)	長座体前屈(柔軟性)	反復横とび(敏捷性)	シャトルラン(全身持久力)	50m走(スピード)	立ち幅とび(筋パワー)	ボール投(巧緻性)
男子	-0.9	1.9	0.6	3.8	1.0	1.8	0.8	-1.1
女子	1.2	-0.8	1.0	1.3	-0.5	-0.2	-2.6	-1.9

[-5p以上] [-5~-2p] [-2~0p] [0~2p] [2~5p] [5p以上]

弱み ← → 強み

② 意識面 全国(割合%)との比較

	運動が好き	中学校卒業後自主的に運動したい	運動部への所属	保健体育の授業は楽しい	目標を意識することで「できたり、わかったりする」	友達と助け合い、教え合うことで「できたり、わかったりする」	ICTを使った学習で「できたり、わかったりする」	体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている
男子	2.0	-1.3	3.3	3.4	6.2	3.7	-9.1	9.5
女子	-0.4	-11.3	0.2	5.7	4.1	5.1	-0.9	4.7

[-7%以上] [-7~-3%] [-3~0%] [0~3%] [3~7%] [7%以上]

弱み ← → 強み

(3) 令和8年度の方針【学校全体での取組】

- 自校の体力的課題の解決に向けての授業での工夫・改善
 - 毎時間の準備運動を通して柔軟性の向上につなげ、各単元の特性を生かし、持久力・投力・筋力などをバランスよく高め、スポーツテストの合計点が4~6点向上することを目指す。
- 運動の二極化を防ぐための授業での工夫・改善
 - 自己の能力に応じた目標設定とその達成に向けて努力することによって達成感を味わえる体験を積み重ね、保健や体育理論を通して、運動の必要性や楽しさ・魅力を理解できるように工夫する。
- 授業の過程で、知識を活用したり、表現したりする場面設定の工夫・改善
 - 実技や保健などの学習を通して、適宜タブレットを活用し、知識の活用や発表の場を設ける。